

〔槐記〕享保十一年五月朔日略○中 會席略○中 鉢○中

〔萬寶全書〕八 高麗燒物之類

古○三島 渡りにてひとへに古き物也、摠じて三島手と云は、茶碗の表に三島曆を見るところに

堅なる細き繪あり、よつて又是を曆手共云なり略○中 鉢○三島手

一雲靄 地紋に雲靄の繪有、繪を書、上に藥をかけたる物なり略○中 鉢○中

刷毛目、トハ内にて外にても、又内外共にても、はけにてはきたるやうに筋あり、ほり出の手と

云○中 鉢○中

金海略○中 鞞革鉢有、内に金之字色々有略○中

御本手 利休、織部本なり、是は兩人共に公方より、御本を受物好を加へ、高麗へ誂へ遣されしを、

本のごとくにして本朝へわたりたるを、御本手と云、次第々々に御本有略○中 鉢、皿

〔萬寶全書〕八 染付物之類

金○襴手 染付 嘉靖時代鉢皿小道具何れも上手多し、染付之物に所々金を焼付たる也、又金不入

して、同時代の小道具有、又後渡有、

〔婚禮道具諸器形寸法書〕八 挽鉢○中 圖

徑一尺四寸六分、高五寸五分、内コウ臺高六分五厘、カウ臺徑八寸八分、同厚五分、

〔節用集大全〕一 器財 入子鉢

〔釋氏要覽〕道具 鉢器大小數十種、律云、鍵、鉢、半、鉢、大、鍵、入、次、鉢、次、鉢、入、大、鉢、鍵、小、鍵、踏、同、四分

〔名産諸色往來〕七 鉢

〔好色二代男〕五 彼岸参りの女不思議

絹幕、括枕の見透くに、風呂敷引張りし中に、入子鉢の明空を枕にしたも、夢幻の春じやもの、恥ぬ